

# 神経疾患を身近に感じよう

～診察・診断のための基礎知識～

## vol.16 てんかん発作へのアプローチ ～発作を起こしたと来院したら①～

中本 裕也

Neuro Vets 動物神経科クリニック

### はじめに

今号では、遭遇する可能性の高い「発作」に関するアプローチを概説する。後述するが、発作という用語は非常に便利で曖昧であることから、どのような状態

を飼い主が「発作」と表現しているのかを慎重に評価しなければいけない。この機会に、用語についての理解も深めていただきたい。

### 発作とはどのような状態なのか

「発作」とは、突発的に生じて短時間で終息する一過性のイベントとされる。同じような意図で用いられる用語として、痙攣、引きつけ、失神、てんかんなどがある。飼い主が動物を連れて来院した際、このような用語を思い込みで伝えることが多いため、獣医師はどのような状態・症状のことを指しているのかを正確に認識・判断しなければいけない。

当然、全てが神経に関連した症状ではない。筆者は、肛門囊による搔痒、逆くしゃみ、咳などを「発作が起きた」として来院した飼い主を過去に経験している。これらは動画によって視認することができたため、可能であれば飼い主に症状発現時の動画を撮影してもらおうと良い。

### 発作の評価

症状を評価するにあたり、まずは症状発現時の状況を確認しなければいけない。何がきっかけとなったのか、どのような症状を示すのか、症状はどのように変化するか、症状はどのくらい持続するか、発現頻度はどのくらいなのか、何かの刺激によってその症状をやめさせることが可能なのかなどに関して、飼い主に細かく聴取する必要がある。

発作を引き起こす疾患には様々なものが含まれるが、循環器疾患に起因した失神や呼吸器疾患に起因した呼吸困難などはしっかりと評価しなければいけない。また、

神経疾患に関連した発作だった場合には、大きく「前兆・発作期・発作後期」に大別され、症状の持続時間は数分程度で反復性に症状が認められる。

「前兆」では普段と異なる様子(落ち着きがない、不安そうな様子になるなど)、「発作後期」にはウロウロする・呼吸が荒い様子などが含まれる。「発作期」に関しては、後述の「てんかん発作の分類」を参照されたい。発作期において、その発現症状を途中で中断することは基本的にはできない。